

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173100304		
法人名	有限会社ヘルパーステーション		
事業所名	有限会社ヘルパーステーション(あにもの森)		
所在地	埼玉県熊谷市野原135-6		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成31年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、周りが緑豊かな地域の中に心温まるログハウス風のつくりとなっています。室内もふんだんに木を使い心懐かしい暖かい雰囲気でお過ごしいただけるとと思います。敷地内に有料老人ホームと喫茶室など素敵な建物が私たちの目を楽ませてくれることでしょうか。今年4月より、喫茶室にパン工房を併設することになりました。これからは、美味しいパンの香りもあにもの森の自慢の一つになると思います。また、女子ラグビーチームアルカス熊谷のスポンサーとなり応援しています。会社一丸となって熊谷市を盛り上げていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者1人ひとりの生活歴や現在の状況などを把握し、寄り添うことで気持ちや行動の理解に努め、利用者同士の関わり方にも注意を払い、各人らしさを尊重した支援が実践されている。
 ・樹木の茂る広大な敷地は近隣の方々が自由に散歩することができる。また、熊谷市拠点の女子ラグビーチームに協賛され、利用者や選手との交流も行われるなど、地域の振興に努められている。
 ・目標達成計画については、利用者の嗜好が反映された食事が提供され、寿司屋やラーメン屋の来訪も得て、目の前で作っていただくことや、敷地内の喫茶店やパン工房の積極的な利用計画など、外食に代わる楽しみが工夫されており、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員たちで作り、毎朝、職員全員で復唱しています。	自分たちで作った理念に基づき、利用者1人ひとりの生活歴や現在の状況などを把握し、寄り添うことで気持ちや行動の理解に努め、利用者同士の関わり方にも注意を払い、各人らしさを尊重した支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に参加 ・地域包括での交流会への参加	樹木の茂る広大な敷地内には喫茶店もあり、近隣の方々が自由に散歩することができる。また、熊谷市拠点の女子ラグビーチーム(アスカル熊谷)に協賛され、利用者と選手の交流も行われるなど、地域の振興に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の見学会の受け入れや、交流を通して認知症の人への理解や支援方法もお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では主に施設の状況の報告を行っています。でも、地域包括や自治会長の意見や要望にもお応えするよう努めています。	地域包括支援センター、民生委員、自治会長、家族代表の参加を得て開催されており、利用者や事業所の日々の報告に加えて、地域の状況や事情などの情報交換が行われ、運営に活かされるものもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者には必要時毎に意見や疑問等をお聞きしている	地域包括支援センター主催の交流会の場で、市役所の担当者との情報交換が行われている。また、質問や相談には的確に回答やセッションをいただいております、良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が、身体拘束についての知識を定期的に学び理解を深めている。また、実際の拘束を身をもって体験したりと研修を行っている。	職員研修が定期的に行われ理解と意識を高め、毎月のリーダー会議では身体拘束をしないケアの検討が行われ、安全確保のためのミットの使用や、帰宅願望の強い利用者の外出の増加など、身体拘束に頼らない支援に努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が、虐待防止についての知識を定期的に学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体が、権利擁護についての知識を定期的に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、お客様からの意見や、要望を受け入れている。	利用者とは日常の関わりの中で、来訪される家族には来訪時に、来訪が困難な家族には電話により、利用者の状況などを詳細に伝えることでコミュニケーションを深め、汲み取られた意見や要望は検討を経て運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員参加の会議を月に1回定期的に設けている	全職員参加の会議やリーダー会議にて、職員の意見や要望が纏められ、社長・専務同席のリーダー以上の会議で検討が行われている。また、日頃から管理者が職員に頻繁に声掛けを行うことで、話し易い雰囲気が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に従業員の給料水準や労働・やりがいを聞くようにしている。随時、努めているが、年末に個々に努力点や目標、展望を書いて提出し、職員の考えていることを把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の機会や、外部からお招きしたり施設内での勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH交流会に参加している。そこで、市役所職員との交流の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、ご本人からのお話を聞き取りして、要望や考えていることや不安なことを解決できるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から日頃から困っていることをお聴きして安心してご利用していただけるよう、コミュニケーションを通して信頼関係を構築するよう心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度サービスの内容や支援目標を確認し、サービス対応を行っている。他のサービス利用の導入を行ったことはまだない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様へ馴染みの関係が構築できるよう日々努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の様子を報告したり、お元気だったころのお話を聞いて、職員全員に情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・ご親戚・知人等の面会や外出を支援している。また、在宅時に通っていたカルチャースクールのような習い事にも家族との支援で出かけて行っている。	友人・知人・親族の来訪が多く、協力を得て在宅時からの行きつけの場所への外出や外食の機会を持っていただいている。また、携帯電話の使用を可能としたことも、従来からの馴染の関係継続に効果をもたらしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席や、くつろぎ時の席や、部屋割りにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ショートスティを利用していらっしゃるお客様もいらっしゃる。在宅での生活を支援させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、お客様への思い、意向を把握するように努力している。ご本人への確認が困難な場合には家族様や医療面からも考慮に入れてその人にその人の気持ちを把握する	家族と一緒に利用者の話を聴くことや、表情・態度の変化を観察することで、1人ひとりが好むことや好むものを見つけ、できることは叶えるように努めることで、明るく、賑やかになった方もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調時に把握することはもちろん、ご本人からも、ご利用開始後、本人とのコミュニケーションから、面会時の家族様からも聴き取りさせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に窮したり、報告等、様子観察・状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様の気持ちや思いを反映できるように職員間で話し合い介護計画作成している	利用者担当・管理者・ケアマネジャーを中心にモニタリングを行い、利用者・家族・医師などの意見も得て、現状に即した介護計画が作成され、半年毎に見直しも行われている。また、担当者会議への家族の参加を働きかけられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の終わりに個別カンファレンスを設け処遇を話しあう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態が変わったときには担当者会議を開催してケアの方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアをお呼びしたり、近くの公民館へ出かける機会をつくっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人様と家族様の意向に沿った形で継続している。	利用者と家族に、往診対応の協力医療機関を含め希望の医療機関を選択していただき、受診が家族の協力で行われる場合は、利用者の状況を医師に伝えとる共に、医師からの指示や情報を確認する支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に異常の早期発見と早期対応に心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設の様子をお知らせするサマリーを提出し、退院時にはHPのMSWにご協力いただき実調に行き状態の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設契約時に看護体制と終末ケアの体制を家族様に説明して同意をいただいている	入居時に、利用者と家族に終末期に向けて事業所のできる事の説明がなされており、重度化した場合は、家族・医師を含めて話し合いを重ね、最適な選択がしていただける支援が行われている。また、看取りを行った場合はお別れの会を催す検討が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の研修と決定事項は定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・通報訓練の実施	消防署の協力を得て1回、事業所独自が1回の計2回の訓練が併設の事業所と合同で行われており、AEDの操作を含む、救命・救急の訓練も実施されている。また、火災時の対応マニュアルやハザードマップと備蓄も備えられている。	年2回の訓練が実施され、備蓄も備えられていますが、災害時は予期せぬことが想定されます。災害種別の対応マニュアルの作成や地域との協力の推進が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重プライバシー保護には職員全員が配慮している	利用者が他人に知られたくないことや聞かれたくないことに配慮がなされ、友人・知人の来訪や電話などは家族に確認するなどの注意が払われているが、携帯電話の使用を可能としたことで、より注意を払う必要が生じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からお客様との会話の中からお客様の思いを発していただけるような取り組みを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の中で選択肢は少ないが、できる限りお客様の気持ちや希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様から持ってきていただいた服や好きな色のものを身につけていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回程度だが、主におやつづくりと一緒にしている	給食委員会により利用者一人ひとりの嗜好が反映された食事が併設の施設の厨房より提供され、寿司屋やラーメン屋の来訪も得て、目の前で作っていただくことで、外食に代わる、楽しみで食欲をそそる食事が提供されている。	多彩な食事を楽しまれていますが、敷地内の喫茶店やパン工房の積極的な利用など、より多彩な食事の工夫が期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量を把握して記録している。状態によっては水分量、尿量等も計測している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、必要な人には仕上げまたは、全介助で支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常にその人の残存能力の把握をし、安全に自立するよう支援している	1人ひとりの残存能力を把握し、トイレで排泄ができることを原則に支援され、最適と思われる対応が行われている。また、寝たきりであった利用者が入居後立ち歩くことが出来るようになり、排泄も自立した例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、運動、おなかのマッサージを心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決められているが、その日以外でも希望すれば対応できるよう心掛けている	週2回の入浴日は利用者の希望をできるだけ叶え、大小の浴槽や入浴剤の利用など、入浴を楽しんでいただける工夫がなされている。また、拒否者には担当者を変えたり、他の利用者に誘ってもらおうなどの対応で入浴していただいている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家庭での習慣や、健康状態に応じて休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が内服している薬に対する理解はその都度看護師より指導を受けている。症状についても変化等は報告を上げるよう指示している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までお好きだったことや就業の内容を家族様たちからお聞きしてレクや軽作業時に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩棟には随時行けるよう、要望があればお応えできるように心がけている。お花見等、普段いけない場所でも行けるよう計画している	樹木の茂る広大な敷地は、日常的に外気浴や散歩を行うことができ、敷地内の喫茶店やパン工房を利用することも可能である。また、家族の協力を得て、外出や外食、年末・年始の帰宅などの支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をする場所はないが、外の自販機などで好きな飲み物を買えるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には応じている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、お客様が心地よく過ごせるよう、清潔を保ったり、壁への装飾も季節感を出したりしている。	窓が広く高く、見通しが良く、車椅子同士が余裕を持ってすれ違える広さを持つ共用空間では、利用者が思いおもいの場所で寛がれている。また、鉢植えの植え込みを利用者と職員が一緒に行い、テラスには季節の花が絶えることなく眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席のほかにリビングにはソファも設けられており、仲良しで座ったり、食後の喫茶室へのコーヒータイムも楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と協力し在宅から継続した生活が送れるよう配慮している。	馴染みの身の回り品や家具、写真などが持ち込まれ、生活習慣に合せた居室が作られ、スタッフルームから各居室の扉が見渡せる安心な配置となっている。また、専任の職員による清掃が行われ、居室共々清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内にリハビリコーナーを設置し、平行棒は誰でも好きな時に訓練できるようになっている。		

(別紙4(2))

事業所名:有限会社ヘルパーステーションあにもの森

目標達成計画

作成日:平成31年4月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	気分転換のためにも外食の機会を作りたい。	昨年実施できなかった、外食の機会を設けることを再度目標に掲げたいと思う。	高齢化とADLの低下が顕著のため、いきなり外食を実施するというより、施設内の喫茶店での食事 で外食気分を味わっていただくことを第一段階とする。	10ヶ月
2	35	災害時における訓練の充実が必要。	防災訓練について、現在火災のみの訓練なので、地震を想定した訓練の実施。	火災訓練時に消防または、防災設備業者に相談して逃道を確保し、職員全員に周知していく。	10ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。